

県連ニュース

2022年7月 NO-540号



『比良・ナガオのぶなの木』

滋賀県勤労者山岳連盟

2022年7月号 目次

巻頭言 彷徨倶楽部 谷内 資康

清掃登山全体報告

清掃登山 正面谷隠れ滝	ちごゆり山歩会
清掃登山 雨乞岳	滋賀山友会
清掃登山 三上山	テクテククラブ
清掃登山 雪野山	彷徨倶楽部
清掃登山 高室山	湖南岳友会
清掃登山 マキノ寒風山	シャクナゲ遡行クラブ
清掃登山 近江湖南アルプス	滋賀山友会
清掃登山 飯道山	綾野山歩会
清掃登山 伊吹山	滋賀山友会
清掃登山 ①権現山・小女郎池	比良雪稜会
②蓬萊山・打見山	比良雪稜会

初級登山教室 金毘羅山・クライミング

八雲が原テント泊

大御影山交流山行 彷徨倶楽部

ステップアップ登山講座 八ヶ岳・天狗尾根～赤岳

金毘羅山 ヒヤリハット報告

ヒヤリハット報告を見て

ぐうたら会長のつぶやき

第3回 県連理事会 (5/18) 議事録

近畿ブロック代表者会議議事録

7-9月 行事予定表

表紙の写真『比良・ナガオのぶなの木』

2022.5.22 撮影者：谷内 資康

しばらく振りの巻頭言が私に回ってきました。さて、何を書こうかと思い、お恥ずかしいことは承知で私事を記すことにしました。今年の3月に32年間務めた職場を退職し、名実共にフリーになりました。滋賀労山では数年ぶりに初級登山教室をN森さんと立ち上げました。受講生やスタッフを務めて頂いている仲間と各人の力量の向上といった目的意識を持って登山を楽しむことは、自身の励みにもなっています。また、冬のバックカントリースキーでは新日本スポーツ連盟のスキー協に所属し、山スキーリーダーや初級講師の資格取得に向けて活動しています。

さて、趣味の登山を仕事にしようと3年前に日本山岳ガイド協会の登山ガイドステージⅠの資格を取得し、無雪期限定の登山ガイドとして滋賀プロガイド協会に所属しています。今年4月から少しずつ登山ガイドの仕事をしています。長い間、山岳会に所属し、多くの人と一緒に山に登ってきましたが、対価として報酬を受けるとなると山行のリーダーとは異なる仕事上の責任が伴い、お客さんに楽しんでもらうといったサービス精神も欠かせません。これからプロガイドとして生計を立てる訳ではありませんが、登山を通じて安全・楽しみ・健康といった面で一般登山者に対してもサポートできればと考えてします。

もう一つの趣味は古代から中世にかけての遺跡歩きです。特に弥生時代～古墳時代の墳墓（古墳）、古代～戦国時代の山城など現地を歩くと博物館とは違った楽しみが得られます。日本人はどこから来たのか、日本という国はどのように成立したのかなど興味は尽きません。素人の歴史好きですがどうすれば考古学の仕事ができるのかと学芸員の資格を考えましたが、履修科目が多く、実習もありこの歳では厳しそうです。そこで「考古調査士2級」（国家資格ではない）を修得するため、授業料を納付し、交通費をかけて昨年4月から7月まで週末は早稲田大学に通いました。コロナ禍でオンライン授業もあり戸惑いながら多くの若い学生、数名の社会人学生と一緒に授業を受け、無事卒業し、学生証を使ってこの時とばかり博物館や美術館をはしごしました。5月から7月末まで京都府埋蔵文化財調査研究センターで「整理員」というアルバイトに従事しています。これは奈良時代のお寺（京都府井手町）の発掘調査で出土した瓦を洗浄し、整理するという力仕事ですが、1300年近く昔に焼かれた瓦で中には唐草模様などの入った紋様瓦や陶磁器の破片も出てきて、今も残っていることに文化のすごさを感じています。

今後も趣味を仕事に活かせるか未知数ですが、身体が健康で動ける間はプライベートも含めて、活動をして行きたいと思っていますのでよろしくお願いします。

第 50 回清掃登山 報告

滋賀県勤労者山岳連盟

理事長 宮内眞子

第 50 回という節目に当たる今年の清掃登山は、滋賀県で全国植樹祭が開催される日程と重なり、清掃登山を一週前倒で開催することにしましたが、諸事情の関係で、2 週にわたる土日開催という異例の第 50 回清掃登山となりました。好天に恵まれたことが何よりでしたが、事故もなく無事終了できたことは、大変うれしい事です。毎年ご協力いただいている自治体、団体、協賛企業には、厚く御礼申し上げます。

5 月 28 日、29 日、6 月 4 日と 5 日の 4 日間、県内 8 山域 11 コースで実施しました。

参加者は、4 日間で 168 名(前年 186 名)、登山道から回収されたゴミ量は、合計 171.95kg でした。(前年 187kg) 登山道のゴミは、どのコースも年々少なくなっているようです。ただ昔のゴミが露出している山については、自治体へ回収作業の要望をしていきたいと思ひます。

年々登山者のゴミのポイ捨ては少なくなってきました、登山者に「ゴミの持ち帰り」が当たり前と受け止められているのだと思ひます。コロナ禍で一時は登山者の減少も言われましたが、その間、豪雨などの影響で登山道が荒れました。そしてコロナ禍も収まる傾向にある中一気に登山者が増え、登山道の荒れを加速させているようにも思ひます。登り方にも配慮が必要なのではないかと思ひました。

「ゴミは、持ち帰りましょう」を合言葉にゴミゼロを目標に地道な活動を継続することの意義を強く感じています。しかし最近では、登山用品店で「水に溶けるティッシュ」というものが販売されていて、水に溶けるから山に捨ててもいいと勘違いしている人がいるようです。清掃登山活動を通して、「山にごみを捨てないで、自分の出したゴミは自分で持ち帰る」を徹底してほしいと思ひます。

私たちの滋賀県からスタートした清掃登山が、全国に広まりました。今回、登山道のゴミよりも、登山道の荒廃、浸食が気になりました。今後、登山者として、登山道の整備にも目を向けられたらと思ひます。

2022年第50回清掃登山 報告

滋賀県勤労者山岳連盟
参加人数

	会 場	山域	コース	会員	会員外	小・幼児	合計
5/28	東近江市	鈴鹿	雨乞岳	8	0	0	8
5/28	大津市	比良	正面谷隠れ滝	11	13	0	24
5/29	多賀町	鈴鹿	高室山	10	1	0	11
5/29	栗東市	近江湖南	天狗岩	14	1	0	15
5/29	高島市	マキノ	寒風山	4	0	0	4
5/29	野洲市	三上山	三上山	7	5	5	17
5/29	竜王町	竜王	雪野山	4	2	0	6
6/4	甲賀市	信楽	飯道山	0	8	3	11
6/4	米原市	伊吹	伊吹山	12	3	0	15
6/5	大津市	比良	権現山～ 子女郎ヶ池	14	12	0	26
6/5	大津市	比良	蓬莱山～ 打見山	15	16	0	31
合 計				99	61	8	168

ゴミ[Kg]

	会 場	山域	コース	可燃	不燃	缶	びん	ペット	その他	合計
5/28	東近江市	鈴鹿	雨乞岳	4.25	4.5	0.35	2		0.35	11.45
5/28	大津市	比良	正面谷隠れ滝	15	22.1	2	1.7	0.4	3.5	44.7
5/29	多賀町	鈴鹿	高室山	1.6	0.4	0.2	0	0	0	2.2
5/29	栗東市	近江湖南	天狗岩	1	0.5	0	0.6	0.1	0	2.2
5/29	高島市	マキノ	寒風山	0.7	0.3	0	0	0	0	1
5/29	野洲市	三上山	三上山	0.2	0	0	0	0	0	0.2
5/29	竜王町	竜王	雪野山	0.6	0.3	0.2	0	0.4	0	1.5
6/4	甲賀市	信楽	飯道山	1	0	0.3	0	0	0	1.3
6/4	米原市	伊吹	伊吹山	3.5	25.2	28.3	20.7	1	0	78.7
6/5	大津市	比良	権現山～ 子女郎ヶ池	3.5	2	0.5	2.5	0	0	8.5
6/5	大津市	比良	蓬莱山～ 打見山	9	5.1	0.5	5.5	0.1	0	20.2
合 計				40.35	60.4	32.35	33	2	3.85	171.95

実施日	山城・コース		報告者
5月28日	鈴鹿・雨乞岳	・雨乞岳山頂と武平峠の駐車場周辺にゴミは集中していました。 ・道中の登山道には、ほとんどゴミはありませんでした。 ・清掃登山をしています」と回りの登山者にアピールした。	山友会・上澤
	比良・正面谷・隠れ滝	・駐車場のゴミは減ってきている。 ・登山道のゴミは少ない。 ・駐車場のゴミは減ってきている。	ちごゆり山歩会 柴田
5月29日	鈴鹿・高室山	・登山道の周りにはゴミはほとんどありませんでした。 取りつき道路登山道全般によく踏まれていて、大勢の登山者が訪れてる様子、要所には道標が整備されていた。 山頂集会のおり、一般登山者に本日の「清掃登山」をアピールした。	岳友会・村田
	近江湖南アルプス 天狗岩	・登山道には、ゴミは少なかった。登山道も整備されている。	山友会・豊田
	マキノ・寒風山	コース全体にゴミは非常に少なかった。小さなゴミを拾った。登山道の目印テープが7〜8本落ちていた。下山後にゴミの計量をするとう過去最低の重さだった	シャクナゲ・我妻
	野洲・三上山	・すれちがう登山者からご苦労様です、と声をかけられた・ほとんどゴミはなく、きれいにされていた。・中学生に野洲市長のメッセージを読み上げてもらった。・暑い日だったので帰路は、希望ヶ丘運動公園西ゲートからバスに乗り、野洲駅に戻った。・一般参加者が、2名びわこテクテククラブに入会された。	テクテククラブ・星
	竜王・雪野山	・登山道でのごみはかなり少ない。登山道を歩いてみて登山者が少ないことでわかる。・案内標識が朽ちて欠落していたり、完全に壊れていたりしている。登山道脇の整備も出来ていないのが原因の一つかもしれない。	彷徨・山元
6月4日	信楽・飯道山	・頂上付近の登山道は整備されていた。(日本百低山の放映のおかげか)・前年と比べガラスなど重いゴミがなくなっていた。・山道のゴミも一段と少なくなっていた	綾野山歩会・森口
	伊吹・伊吹山	ゴミがたくさん出てきたのは五合目、以前営業していた小屋のゴミが地面に埋め込まれ、上の土が流されて地表に出てきたものが多く、中には数箇所まとまって投棄されている所もありました。このようなゴミは「清掃登山」で回収すべきなのかどうか検討課題だと思います。結局時間を区切って収集し、五合目にデポして山頂まで往復、下山時に三合目まで運んで、分別・計量をしました。	山友会・北川
6月5日	比良・権現山〜 子女郎ヶ池	今回のコースは全体的にゴミが少なく、良い状況と思える。自然保護のために、むやみに登山道を外れ無い様に歩く。	雪稜会・川嶋
	蓬萊山〜打見山	・思いのほか、不燃ゴミやびんの回収が多かった。このコースは車で中腹までの乗り入れが可能であり、少々重いものでも持ち込めることが原因の一つだと思う。また、びわ湖テラスに行くつもりで間違えてこの道に入って、途中で引き返す車やバイクが目についた。	雪稜会・田中

滋賀県で開催される 第25回全国自然保護講座 お知らせ

9日のみの参加可能です。 参加費 無料

申し込み必要 6/28までに shigarosan@gmail.com

詳細 7月9日(土) 滋賀県立山岳センター (jr北小松駅から徒歩15分) 13時～18時

受付13時 開会13時15分

13時30分 講演会 講師 若松伸彦氏 日本自然保護協会理事

演題 「美浜・新庄ウインドファーム発電事業から考える環境アセス」

16時00分 地方連盟からの報告 報告者

① 徳島 四国地方における風力発電 片山

② 静岡 南アルプスの自然、環境を壊すニア計画 竹本

③ 千葉 全国の風力発電計画の紹介と考察 山本

18時00分 終了

清掃登山 ちごゆり山歩会 5月28日(土) 晴れ 隠れ滝コース

参加者: 濱本 高山(2) 平野 田村 目片 高谷 村田 嶋本 柴田(2)
会員 11名 会員外 13名 合計 24名

イン谷口9時半集合で開催、清掃用具やしおりを手渡し、会長は“50回続けて来れたのはみなさんのおかげ”とあいさつ、続いて県知事メッセージ、県連会長あいさつを田村さん、濱本さんがそれぞれ代読、そのあと注意事項、コースなど説明し、田村さんの指導のもとみんなで準備体操をすませ、4班に分かれ10時過ぎ出発する。

とりあえず、ゴミはあっても帰りに捨てることを基本にし、休憩は班ごとに行い隠れ滝へと向かう。

全員が隠れ滝に着いたところで11時半、予定を変更して、手がきれいなうちにここで昼食休憩とする。初めての人は隠れ滝を見物、アイスコーヒーを飲みながらなごやかに過ごす。

12時過ぎ、ゴミを拾いながらゆっくり下山。正面谷の駐車場も清掃し、イン谷口にゴミを置き、旧リフトのりば方面の清掃も行う。

集めたゴミを集積場所で計量し、参加のみなさんに報告、全国連盟からのアピールを高山さんから読み上げていただき、会長のお礼のあいさつのあと2時過ぎ解散。車以外の方は、バスの時間までまだまだあり、徒歩で比良駅に向かう。

今回ゴミの重さはあったが、格段に量は減ったと思える。不法投棄も少なくなってきた。リフト下駐車場で用の足しの跡が目についた。

一般参加者の方はまじめに熱心にゴミを捨ててください、またいつも参加して下さる方が、しおりを見て「去年もしてるやないか、知らせてくれたら参加したのに」…と、このようなさまざまな方たちに支えられて清掃登山は続いてきたのだと感慨深く思った。

2020、2021年とコロナのため会員だけで細々と実施したが、今回会員外13名(広報5名、以前からの参加者案内6名、その他知合い等2名)も参加していただきにぎやかで気持ちのいい一日となった。

ゴミの量

可燃物 15 kg、不燃物 22.1kg、カン 2 kg、ビン 1.7 kg、ペット 0.4 kg、その他 3.5 kg

合計 44.7 kg

(ちごゆり山歩会)



清掃登山 東近江市・甲賀市 雨乞岳 (滋賀山友会)

実施日：2022年5月28日(土) 晴れ

参加者：上澤(CL 報告)金原、宮内、吉村、坪田、浅見、西堀、中村(比良雪稜会) 8名 参加

集合：武平峠 8:30

【コースタイム】武平峠 8:48→9:36 沢谷峠→10:40 1014 三人山→11:23 東雨乞岳→11:36 雨乞岳 (昼食&ゴミ拾い)
12:18→12:50 1027 峠 (希望者のみ七人山へプチ往復)
13:02→ 14:17 沢谷峠→14:57 武平峠 (ゴミ拾い) 15:20
解散 15:30



雨乞岳は人気があり、土日は早い時刻に駐車場が満車となります。今回も例外では無く、クルマを路肩に止めざるを得ませんでした。登山道はゴミがほとんど無く、マナーは守られていると感じられました。当初は東雨乞岳山頂にて昼食の予定でしたが、あまりにも風が強く、雨乞岳まで行きました。(雨乞岳山頂はほとんど風無し) 雨乞岳の山頂には藪のなかにかかなりのゴミがありました。帰路、予定を変更して谷道(こちらが一般道)を行きましたが、ここもゴミはほとんど有りませんでした。ゴミが多かったのは武平峠の駐車場で、空き缶・ペットボトル・ビニール袋など、大量のゴミを回収しました。

可燃ゴミ:4.25kg 不燃ゴミ:4.5kg 缶:0.35kg びん:2.0kg ペットボトル:0.35kg 合計:11.45kg

雨乞岳清掃登山に参加して

雨乞岳は登りたかった山の一つ、またその名が示す通り雨乞神事が行われたということで、どのような山なのか楽しみにしていました。天気は最初やや曇り気味でしたが、だんだんとよくなり、美しい木々の緑と澄んだ水の流れがとても印象に残っています。途中、鎌ヶ岳や御在所岳を望み、東雨乞岳から眺める雨乞岳への稜線はなだらかで美しく、またクラ谷の溪流は、濃淡の輝きを放つ樹林の緑と相まって神秘さを増し、何度も見入ってしまう



光景でした。頂上では大峠の澤と呼ばれる雨乞神事が行われた池を見ることができ、炭窯の跡と共に山と人の共生の歴史を感じることができました。頂上に空瓶等がそのまま土に埋まっているのを見るのは悲しいことでしたが、このような清掃登山を通じて自分自身が気づかないところでこのような行為をしていないか、自分に対する戒めとしたいとも思いました。清掃登山は清掃を目的としたものではありませんが、それでも楽しく快適なものにくださった上澤リーダーをはじめ、皆様に感謝したいと思います。(西堀)

実施日 2022年5月29日 (日) 晴れ

参加者 大人12名 子供5名 計17名

コース 御神神社 9:30→天保義民碑→三上山→花緑公園 12:00 昼食後 解散
報告

去る5月29日開かれた清掃登山は全国的にも先駆けて環境問題（特に山の水質調査）も含めた課題を掲げて滋賀県勤労者山岳連盟が行ってきた社会運動です。テクテククラブもこの運動の大切さに共鳴し一緒に行ってきました。

三上山は子どもも手軽に登れる山として歴史的に子どもの参加、親子の参加が多いです。

今年も子どもが5名、大人が12名の参加者であった。JR野洲駅からミニバスにて御神神社まで異動し9時30分に自家用車組も含めて全員が勢ぞろい野洲市から提供して頂いたトングとゴミ袋をもち出発。

若者が主体の直登コース、中高年が中心で麓ウォークと2組に分かれて花緑公園を目指して頑張ろうと元気に出発しました。

頂上組はものすごく見晴らしが良く「わー絶景だ」という感嘆の声でした。

途中、ゴミもほとんど無く登山道も整備されており、行き交う人からゴミ拾い、ご苦労さんだねと褒められたら嬉しい！花緑公園に12時には全員が揃う。食事後、自己紹介、野洲市長からのメッセージ紹介などがあって解散となりました。

(報告・星)



報告

2022年 清掃登山 (彷徨倶楽部 / 滋賀県勤労者山岳連盟)

◇日 程 5月29日(日) 9:00~ (集合: 妹背の里 駐車場)

◇山 域 雪野山 (竜王町)

◇参加者 合計 6名 (会員4名、一般大人2名)

(一般のうち1名は、地元竜王町の方でした。ご参加、ご協力ありがとうございました。)

◇ゴミ集計 合計 1.5kg

(ゴミ内訳) ・可燃: 0.6kg ・不燃: 0.3kg ・かん: 0.2kg ・ペット: 0.4kg)

◇その他

○登山道のごみは、かなり少ないです。当日は珍しく1組の家族と出会いましたが、雪野山での登山・ハイキング客は最近かなり少なそうです。登山道脇の草や樹木が成長し、展望所での眺望があまり期待できなかったり、また以前設置された案内看板や道標が朽ちて壊れていたりします。そういった登山道の整備が進めば、誰もが楽しめる地元の山・雪野山になることと思います。

○当日参加で、地元竜王町の方が1名いらっしゃいました。当日参加のため、保険代としての100円は徴収していません。(万一の保険対応ができないため→事前申し込みをお願いしたいです) ご参加いただいた方には、その旨を説明しご理解をいただいたうえでご参加いただきました。来年からはさらに多くの方にご参加いただき、郷土の自然に親しみ、大切に守っていくという活動を続けていきたいと考えております。



高 室 山

報告：村田啓二

実施日：2022 年 5 月 29 日 天気：終日・快晴 微風

参加者： 11 名会員（10 名 一般 1 名 CL 村田 SL 重井）

コースタイム

多賀町役場出発 7：50→佐目自然公園駐車場 8：20→P415(原石山展望台)8：47→
P543 9:22→林道出会 9：45→高室山 10：16～11：18→林道登山口 11：32→鉄塔下
山口 12：18→南後谷 13：02→佐目自然公園駐車場 13：31→多賀町役場 14：22

今年度は 5 月 29 日の実施である、「乾燥した晴天に微風」絶好の登山日和に恵まれ心配した山ビルの被害もなく気持ちの良い汗を流しながらの清掃活動で収集した塵は、**可燃ゴミ 1.6 kg、カン 0.2 kg、不燃ごみ 0.4 kg、合計 2.2 kg**でした。

大勢の方が登っている様子ですが、登山道とその周辺にはほとんど見当たりませんでした



準備体操をして出発



山頂集会・多賀町長メッセージ朗読



計量中

清掃登山報告書

実施日 2022年5月29日（日） 会場 マキノ コース 寒風山

担当 シャクナゲ遡行クラブ

一般参加者はなく、会員4名のみでの開催となった。寒風山へは例年、スキー場の西斜面から上る登山道を利用していたが、初めて登山者用駐車場から直接上がる登山道を利用した。西山林道を越えてから合流することとなるが、案外整備されていて、テープも要所にあった。

コース全体にゴミは非常に少なかった。ペットボトルは1本もなかった。缶も朽ちて蓋だけになったものを数個拾っただけだった。小さなゴミを拾った。栗柄越からの下りで、以前瓶や瀬戸物の大きなかけらを拾った平坦地に細かな破片が露出していた。見えるものは全て拾った。自然に戻らないものは厄介だ。更に下った東屋周辺もゴミは全くなかった。下山後、計量すると過去最低のゴミの重量だった。

スキー場へ下山する直前の14時半過ぎに、70代の7～8人のパーティが登って来た。挨拶をすると、「鳥取から来ました。赤坂山へ行きます。今日の二山目です。」と返事があった。往復4時間なのにと思ったが、「お気を付けて。」と言うしかなかった。

登山者のマナーが良くなっていると感じた。ただ山にゴミがないからこそマナーが維持されるようにも思える。清掃登山の継続は非常に意義が有ると思う。

ゴミ集計 可燃ゴミ 0.7kg 不燃ゴミ 0.3kg 合計 1.0kg



清掃登山 近江湖南アルプス

実施日：2022年5月29日

参加者：豊田 沼 宮内 川口 小間 萬代 山田(比) 岡本 安田
明隅 浅見 坪田 阿部 西堀 滋賀山友会 14名 青木 (一般) 計 15名

コースタイム：JR 草津駅東口 8:00 発帝産バス→上桐生 8:20→落ヶ滝分岐 9:10→北尾根 9:50
→天狗岩 11:00→竜王山 12:10→金勝寺 13:00・14:00(バス)→JR 手原駅
14:50(解散)

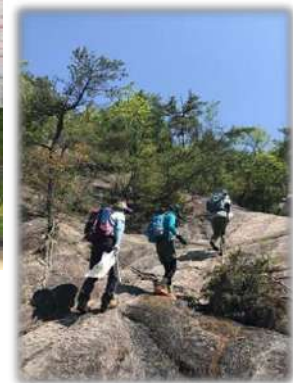
この時期毎年恒例の清掃登山です。当日は天候にも恵まれ、またコロナウイルスの影響で種々の行事が中止延期されている昨今ですが、無事開催する事が出来ました。

対象の山は、近江湖南アルプスになります。

近江湖南アルプスは滋賀県でも人気の山になります。滋賀県はもちろんの事、他府県からも沢山の人がみえます。

そんな山なので、ごみの量も有るだろうと考えていましたが、思ったより少なく清掃活動としては嬉しい事では有りました。この状態を継続できる様に引き続き清掃活動を行うと同時に、ホームページ・SNS等を利用した啓発活動も県連として行っていければと思います。当日参加された方、お疲れさまでした。

ごみ集計						
可燃	不燃	缶	ビン	ペット	その他	合計
1kg	0.5kg	0kg	0.6kg	0.1kg	0kg	2.2kg



飯道山(664m)清掃登山報告 (綾野山歩会)

1. 日時: 2022年6月4日(土)晴

2. 参加者: 池本(幸)、小林、西村(は)、福井、森口、夢の学習(6名)、計11名

3. 行程:

貴生川駅〜〜日吉神社〜〜岩壺不動尊〜杖の権現休憩所〜〜飯道山〜〜飯道神社〜

8:50 9:45 10:25 10:35 11:30 11:45 12:25 12:30 12:45(昼食)13:30 13:55 14:10

杖の権現休憩所〜岩壺不動尊〜〜大鳥居〜〜貴生川駅

14:30 15:10 15:20 15:50 16:00 16:10

第50回滋賀労山の清掃登山に協賛して16年、今日は11名が参加。貴生川駅であいさつと説明を行い、体操をして出発。強い日差しの中、2家族を挟む形で三大寺集落を進み、歩道に落ちている吸い殻やマスクを拾い、日吉神社で休憩。チキンファームが登山道入口。NHK・BSの日本百低山で飯道山が照会されたとき、吉田類と雛形あきこが、ここで落ち合った。鳥獣防護柵を開けて山道に入り、しばらく歩くとササユリを発見。昨年は蕾であったが、今年は咲いていた。清掃登山の時期を1週間遅らせたからだと思う。岩壺不動で休憩。トイレがきれいになって気持ちがよい。林道を歩き、やがて別れて左羅坂へ入る。ごろごろ石が続く歩きにくい急坂で、一番しんどいところを子供達はさっさと登り、杖の権現休憩所へ。昼食時間になっていたが、もう一踏ん張りして、頂上へ向かう。日本百低山の放映のおかげか、山道が整備されていた。滑りやすい急坂に木段と鎖が設置され、落ちたら危ない大岩の展望台にトラロープが張られていた。ようやく頂上へ到着。昼食タイム。三上山や比良山系を眺めることができた。頂上で勤労者山岳連盟の声明と甲賀市長のメッセージを朗読する。休憩を十分に取ってから尾根道を歩き、飯道神社へ向かう。尾根道にも新たな道案内の標識が設置されていた。飯道神社に参拝し、本殿背後の「東ののぞき」に寄ってから休憩。午後2時過ぎ、下山開始。杖の権現休憩所に戻り林道を下るが、林道は崩落箇所が放置されたままで、林道の程をなしていない。この間、疲れたのか女兒がむずかり、父親におんぶされる場面もあったが、岩壺不動に着くまでには元気になった。後は一気にゴールの三大寺の鳥居へ下る。ゴミを仕分けして計測。カンが0, 3kg、可燃ゴミが1kg、計1, 3kgであった。前年と比べるとガラスなどの重いゴミがなくなったからで、又、山道でのゴミも一段と少なくなった。ここで解散し、2家族を貴生川駅まで送る。(23,000歩、12km)



貴生川駅で体操



登山口



山道途中



岩壺不動



左羅坂へ



頂上より三上山



飯道山頂上



飯道神社本殿



鳥居前で計測

清掃登山報告

「伊吹山」

(滋賀山友会)

【実施日】：2022年6月4日(土) 晴れ

【参加者】 K川 (CL)、Y森 (SL)、M内 (県連)、K原、K西、T本 (記録)、TB田、U都宮、TR田、N西、I野、N堀、BL (一般)、S田 (一般)、I藤 (一般)

【コースタイム】

集合 8:00 (打ち合わせ、ストレッチ) →

一合目 8:40 (休憩 5分) → 二合目 9:10 → 三

合目 9:45 (休憩 10分) → 五合目 10:20 (ゴミ拾いと休憩 30分) → 八合目 11:45 (休憩 10

分) → 伊吹山山頂 12:20 (ゴミ拾いと昼食休憩 55分) → 五合目 14:15 (ゴミの集約とパッ

キング 15分) → 三合目 14:40 (ゴミの分別と計量 35分) → 二合目 15:35 → 一合目 15:45

(休憩 10分) → 登山口 14:20 (資材の回収と解散)

【報告】

梅雨直前の晴天となった伊吹山はたくさんの登山客で賑わっていました。8時に集合して自己紹介と打ち合わせ、準備のストレッチをして出発。登山道付近に散在するゴミを拾いながら登りました。一合目を過ぎて日差しを遮るものがなくなると暑さが増してきますが、高度が上がるにつれて爽やかな風も吹いて少しほっとしました。

ゴミがたくさん出てきたのは五合目、以前営業していた小屋のゴミが地面に埋め込まれ、上の土が流されて地表に出てきたものも多く、中には数箇所まとまって投棄されている所もありました。このようなゴミは「清掃登山」で回収すべきなのかどうか検討課題だと思います。結局時間を区切って収集し、五合目にデポして山頂まで往復、下山時に三合目まで運んで、分別・計量をしました。(三合目に集積したゴミは前会員の T 橋さんに登山口まで運んでいただきました。) 晴天下で、ややハードな行程でしたが、充実した清掃登山となりました。



可燃ゴミ:3.5kg 不燃ゴミ:25.2kg 缶:28.3kg
びん:20.7kg ペットボトル:1.0kg 合計:78.7kg

第 50 回 クリーンハイク（清掃登山）

南比良 ①コース 権現山～小女郎ヶ池

担当：比良雪稜会

【日時】

2022 年 6 月 5 日（日） 【天候】曇り

【参加者】当会会員 13 名 滋賀山友会 1 名 一般 12 名 計 26 名

【行程】

集合堅田駅＝（バス）＝平～アラキ峠登山口（開会式・準備体操）～権現山～小女郎ヶ池～蓬莱山～
打見山＝（ロープウェイ）＝山麓駅にてゴミ分別計量・閉会式後解散

堅田駅 8 時集合。受付・検温・手指消毒・軍手ごみ袋配布等済ませ 8 時 50 分発のバスに乗車。
バスは我々 26 名プラス数名で、それほど混雑していなかった。

約 30 分で平バス停に到着し、安全な場所まで移動することに。数分歩いたところで大きく立派な
マムシグサに遭遇。

アラキ峠への登山口にて開会式。N 会長より挨拶や注意事項等。“ゴミを集めながらも山も楽
しみましょう”ともあり。主催者を代表して K 県連理事より挨拶、N 氏リードにより準備体操の
後、9 時 45 分ごろ出発。

ゴミを探しながらゆっくりのペースで進む。所々で先頭の会長が倒木の邪魔な枝を鋸で切る。

10 時 45 分アラキ峠に到着。周辺のゴミ拾いをしてから休憩。大きな錆びた落下看板があり会長
がハンマーなどで解体に挑んだが予想より頑丈で断念。

休憩後出発。道中蛇がカエルにかぶりついている場面に遭遇。蛇は人の気配に驚いたのか途中で逃
げた。

11 時 40 分権現山に到着。曇り空だが琵琶湖大橋も良く見え良い景色を拝めた。

12 時 25 分ホッケ山到着。道中レンゲツツジ、タニウツギ、ベニドウダンが同時に見えるスポット
あり。

13 時 05 分小女郎ヶ池到着。周辺のゴミ拾いをしてから昼食。

13 時 30 分 集合写真撮影後出発。

14 時 10 分 蓬莱山到着。蓬莱山頂からゲレンデのゴミ拾いをしながら下りる。

14 時 30 分 打見山に到着。②コース到着から約 30 分遅れの到着。

両コース全員集合し 全国連盟自然保護委員会による“清掃登山を成功させよう”の呼びかけ文を
N さんが読み上げ、拍手で採択する。

全国は 49 回目だが滋賀は 50 回目。清掃登山が滋賀から始まったのは誇らしい。

全員集合写真の後、ロープウェイにて山麓駅へ。

山麓駅にてゴミの分別・計量を行う。計量結果は下記(単位 k g)のとおり K 県連理事より発表あり。

燃えるゴミ	3.5
燃えないゴミ	2
缶	0.5
ビン	2.5
合計	8.5

会長の閉会挨拶の中で、当比良雪稜会の清掃登山は夏原グラント(平和堂財団の環境保全活動団体
への助成制度)の助成事業である旨及び江若交通さんとびわ湖バレイさんの協力もいただいている
ことの報告があり、その後解散。

【まとめ】

予定通り無事清掃登山を終えることが出来 良かった。ゴミは年々減少傾向でマナーが向上してい
ることは素晴らしい。しかし、休憩によく使われるような場所ではゴミがまだまだ見受けられる。
清掃登山の時だけではなく 日頃の山行時にも意識を高めていきたい。

記録報告：S S



権現山・小女郎ヶ池コース(①コース)全員集合

小女郎ヶ池にて



両コースの 57 名全員集合

打見山頂にて

南比良②コース 蓬莱山・打見山

担当：比良雪稜会

実施日 2022年 6月 5日(日) 曇り

参加者 当会会員 13名、山友会 2名、一般 16名、計 31名

行程 9:00 蓬莱駅集合 = (タクシー、自家用車) = 10:00 野離子川砂防ダム ~11:10 金毘羅道
登山口 ~ 13:00 蓬莱山 13:40 ~14:00 打見山 = ロープウェイ山麓駅 15:40 解散

お天気は好転し薄曇り。蓬莱駅に集合し、タクシー組と自家用車組に分かれ野離子川砂防ダムで再集合した。各自 軍手をしハサミ・ゴミ袋を持ち準備が整うと、4班に分かれて出発。舗装された林道に沿って進みゴミを探しながら歩くが、Tさんの挨拶にもあった通り、近年は登山者のマナーが良いようで、ゴミは少ない。見つかると思わずしてやったりと笑みがこぼれた。かなり古い缶や作業用の紐、お菓子の包みなどが多く、中には一升瓶など大物を回収された方もいた。歩き出して約1時間ほどすると登山道に入り、そこからは九十九折に登りが続いた。登山道からは、ほぼゴミを目にすることはなかった。適度に休憩を挟みながら予定時刻に蓬莱山へ着くと、冷んやりした風に肌寒さを感じ、眼下には琵琶湖を一望した。山頂付近は観光客で賑わい、ここで昼食を済ませ打見山へ移動した。ロープウェイ乗り場付近で”権現山・小女郎ヶ池組”と合流し、ロープウェイにて下山すると、各自が集めたゴミを持ち寄り分別・計量し解散した。登山者のマナーは守られているようだ。

可燃性ゴミ	9.0kg
不燃性ゴミ	5.1kg
缶	0.5kg
瓶	5.5kg
ペットボトル	0.1kg
<u>合計</u>	<u>20.2kg</u>

〈2022 年度初級登山教室報告〉 京都北山・金毘羅山／クライミング入門 I

日 時 2022 年 5 月 14 日 土曜日 小雨のちくもりのち晴れ
講師及びスタッフ T 内(彷徨倶楽部) N 森(彷徨倶楽部) K 口(滋賀山友会) H 野(比良雪稜会) K 嶋(比良雪稜会)
受講生 T 本(滋賀山友会) S 口(滋賀山友会) T 内摩(彷徨倶楽部) S 水(比良雪稜会) N 村(比良雪稜会)

- 8:40 寂光院駐車場出発 出発前に T 内摩さん入会の自己紹介。
9:06 江文神社到着。クライミング装備を装着。2 回目のクライミング講習のため、前回参加した受講生は少しスムーズに装着出来ていたように思う。T 内摩さんは今回初めてなので、T 内さんに教わりながら装着。
9:26 江文神社出発。アプローチを歩き Y 縣尾根登山口を目指す。
9:40 Y 縣尾根登山口到着。3 班に分かれ、クライミングシューズに履き替える。

① K 口・H 野・S 水 ② T 内・T 本・T 内摩・N 村 ③ N 森・K 嶋・S 口
(注意事項)

雨の後で、岩が滑りやすいので、直角のところにおく。落石が危ないので、岩に背を向けて立たない。すぐに気付けるように岩に向いて立っておく。今いる場所から見える枯れ木の右側の岩が動くので注意。

(講習内容)

- ・セルフビレイは自分より高い位置でとる。メインロープと安全環付きカラビナで、クローブヒッチでとる。
- ・ビレイの仕方を教わり、受講生がビレイを担当する。
ビレイの仕方: グローブを使う。ハーネスのビレイループに安全環付カラビナでビレイデバイの装着。装着するときビレイデバイの向きに注意する。上側のロープがリードクライマーとなるようにロープをビレイデバイスに通し、カラビナにも通す。
右手はロープから手を離さず、繰り出したらすぐに下げる。リードの動きに合わせてロープを繰り出す。またロープを出し過ぎないように気を付ける。

②班では

- 10:15 1 ピッチ目のリードは T 内さんで T 本さんがビレイを担当する。
11:15 2 ピッチ目 T 本さんに見てもらいながら N 村がビレイを担当する。リードの動きに合わせてロープを繰り出すのは難しかった。最後に登ったので T 内摩さんと T 本さんがいなくなると③班の声は聞こえるものの、不安を感じる。
12:20 3 ピッチ目ビレイ T 内摩さんがビレイを担当する。
13:00 4 ピッチ目ビレイ T 本さんがビレイ担当。出だし(左側)が難しく、正面右側より登る。T 本さんがロープの束が自分の左側にあったため、繰り出しにくいと言われていた。T 本さんに N 村のロープを後ろにつけて登ってもらうがロープが絡んでしまい、何度か待ってもらう。ロープを絡ませないように気を付ける。ほどいたままのロープは絡まるのでしっかりさばく。登り終わり付近、どこから登ればよいか分からず、K 口さんに指示をもらう。
今回の Y 縣尾根の他のピッチは北尾根の時よりかなりピッチも短く登りやすかった。

13:45 ①②班はお昼休憩。

②班では

- 14:15 5 ピッチ目 T 本さんリードの練習をする。T 内さんがビレイ担当する。
T 本さんが正面右側から登ろうとし、足を滑らせ岩を背にして落ち、勢いが止まらず岩から少し離れた木にぶつかってしまった。怪我はなかったようで少し安心する。再び正面左側から T 本さんがリードとして登る。支点構築する場所を探しながら登るも支点構築する場所がなく上のほうまで登ってしまう。危険なため上からロープをおろしてもらう。
15:15 全員集合し、Y 縣尾根で下山の準備。③班はお昼休憩。今日の実技の感想反省を行う。6 ピッチ目ができていれば Y 縣の頭で懸垂下降の練習をする予定であったが、5 ピッチ目で、下山予定の時間を過ぎていたため下山する。
15:39 下山開始。
16:11 江文神社到着。



16:42 寂光院駐車場。

〈一口感想〉

午後から足元の岩も乾いてコンディションは良くなりました。今回は受講生全員にトップのビレイをしていただきました。ロープ操作は慣れですが今後何回も練習して身に付けてほしいです。ロープの繰り出しでトップがどういう状態に置かれているか見えなくてもおおよそわかるようになれば、自分自身の山での気づきというか危機管理に役立つと思います。(T内)

岩を登ることは、すごく楽しめました。ただ、登るためにはそれぞれの役割を確実に果たし、スキルを高めなければ即命にかかわることがわかり、身の引きまる思いです。覚える事、身に付けるべきことが多すぎて混乱気味ですが、楽しむための努力をしたいと思います。(S口)

皆様、お世話になりありがとうございました。今回の実技講習はクライミングの基礎的な内容でした。ロープワークは、通常の登山においても必要な技術です繰り返し復習しましょう。また、岩稜帯縦走などのトレーニングとして、今回のY懸尾根を登山靴で登り下りすることは効果的な練習になると思います。(H野)

岩場を自分が登る時、ビレイをする時、いずれも「先を読む」ことが大切になってきます。特にビレイ時には、クライマーの次の動きを予測してスムーズにロープをコントロールしなければならず、十分に経験を積む必要がありますが、その際、いくつかある判断ポイントの内、どの場面でどの点を重視するのか、常に意識しながら練習すると、いざとなった時パニックにならずに済むのではないかと思います。(N森)

今回の山行では、引き上げてもらってのクライミングだけでなく、ビレイヤーとしてのロープの扱いなどの体験やリードクライミングの体験などをさせてもらった。どれもロープやビレイデバイスの扱いに慣れていないこともあって、タイミングよくロープを繰り出したり、引き上げたりすることが難しかった。特にリードクライミングでは、50センチくらいの高さから落下して、幸いけはななかったものの、ヒヤッとする一瞬があった。

なぜ落下したか考えてみると、左足スタンスがやや角度があるところに足を置いていたこと、右手のホールドが適切などころがなく左手のホールドと同じ所に手を掛けたため、右足を移動しようとした際、2点支持状態になって、荷物の重みもありからだが振れて、簡単に落ちてしまったのではないと思う。三点確保を安定して保持できるよう心がけたいと思った。(T本)

前日からの雨が上がり貸し切り状態でじっくり講習できるかな？と思いましたが、クライミング講習2回目ではやはり手間取る所も有り、あっという間に時間が経ちました。次回はもう少し机上でシステムや流れを勉強してから挑戦したい所です。(K口)

今回は登りを中心とした研修。5ピッチも登った。ビレイの仕方も教えていただき、リードの動きに合わせてロープを繰り出すがかなり力が必要で、特にシングルロープだったので太くて繰り出しが難しかった。見守られながらビレイはしているものの自分の動作に必死で余裕がない。リードが何かあったときにすぐに対応できるようになるのは非常に難しいと感じた。後、帰り際に初めてヒルにやられてしまった。幸いすぐ気がついたので一か所だけで済んだが、いまだにかゆみが残る。これからの時期、虫の対策も必要だと思った。(S水)

今回、下山時に顔の大きさ位の石を落としてしまいました。『ラク』と直ぐにコールしましたが、前を歩いていたT内さんに当たってしまいました。幸い大丈夫との事でしたが、一つ間違えれば大事故になるところでした。下山で疲れていたり、集中力が無くなっていたのかも知れません。申し訳ございませんでした。クライミング時の落石を注意するのは勿論の事、その岩場への取付きへのアプローチ時も浮石等も多くて危険な状態である所が殆んどである事をいま一度頭に入れて、慎重に行動をしていきたいと思います。(K嶋)

〈2022年度 初級登山教室報告〉

八雲ヶ原テント泊・比良山縦走・読図

日時：2022年5月21日(土)曇り後小雨
～22日(日)晴

講師及びスタッフ：T内(彷徨倶楽部) N森(彷徨倶楽部) K口(滋賀山友会) K嶋(比良雪稜会)

受講生：N村(比良雪稜会) S水(比良雪稜会) T本(滋賀山友会) S口(滋賀山友会)

行程

- 【1日目】9：10イン谷口出発～9：30大山口～11：20北比良峠～11：40八雲ヶ原
＜昼食・テント設営（6人テント1、2人テント1、ソロテント3）＞
13：30テン場出発～ヤクモ池南西部の散策（読図訓練・水汲み・ブナの巨木探し）～
15：20テン場着＜休憩・夕食・ミーティング・就寝準備＞
- 【2日目】4：00起床＜朝食・整頓・準備＞～5：45テン場出発＜縦走・読図＞～6：30コヤマノ分岐6：40コヤマノ岳～7：16武奈ヶ岳～7：30細川越え～8：18釣瓶岳～
9：40ナガオ尾根991～（バリエーションコース）10：20広谷～
10：45テン場着＜テント撤収・昼食＞～11：40八雲ヶ原出発～12：10北比良峠～13：15大山口～13：40イン谷口到着

活動・学び

(1)計画書・食事計画書の作成

- ・ 出発を迎えるまでに、受講生で縦走のコースやタイム、食事内容などについて意見のやり取りを重ねてひとつのものに絞り、完成させた。
- ・ 山中での移動はできる限り早い時間に設定し、下山も遅くとも15時には終えること、最終下山期限日、日の出・日没時刻を記載すること、計画書は遭難時の手がかりであるばかりでなく遭難しないためのものであることを指導頂いた。

(2)テント泊

- ・ 実際に八雲ヶ原をあちこち歩いて風向き、地形、木々、草、ぬかるみの具合などを確かめて、テント設営場所を決定し、協力して設営。
- ・ ツェルトも設営して頂き用途を学んだ。合わせて、トイレのないテン場での排泄物に関するマナーについても知った。
- ・ 飲み水の確保のために、沢を探し水を調達した。飲料として使うためには、煮沸や専用の浄水器が必要であることや、汲む沢も選ぶべきことを学んだ。
- ・ 調理メニューは様々な例があるが、今回は初級でもあり、シンプルなメニューとした。火を使用時、クッカーは常に手で支えておくことを注意された。
- ・ 撤収時には、テントの本体やシート、寝袋などに持ち帰りたくない虫等いないか点検した。（実際フライシートにマダニが付いていた。）

(3)読図・縦走

- ・散策、縦走において、常に地図とコンパスを手に読図訓練を行った。
- ・登山道にある分かりやすい現在地から目的地の方角を知るだけでなく、地図上にないバリエーションルートで自分の今いる場所を地図から実際のピークの形や地形の特徴を目で見つけて探すことの難しさを痛感した。

(4)リーダーとしての行動

- ・パーティーで移動する際、受講生は交替でリーダー役を体験した。先頭を歩いて方向を示すだけではなく、危険個所に気を配り、メンバー全員のペースや消耗具合、異変への気付き等求められることが大変多かった。

<一口感想>

皆さん体力があり、テント設営もてきぱきと出来て良かったです。初日にブナの巨木は見つかりませんでした。地図とコンパスを使って地形を見る練習になりました。翌日は好天で早めに出発でき、快調に歩けました。ナガオの入口に直接下りられなかったのは残念でしたが私も含めて地図読みの難しさが判ったと思います。

(T内)

今回初日夕方よりパラパラと雨が降り始め夜中（私は18時位には寝たので定かでない）にそこそこ降り、明日は下山か？と思いましたが、明け方には雨は止み、快晴の中、当初の計画通り縦走する事が出来ました、主に地図読みでしたが、受講生の皆さん分かったり、分からなかったり、そしてスタッフも……。地図が読める様になると楽しくなりますので、これに懲りず繰り返し練習して頂ければと思います。

今回食事も個食でしたが、皆さんと楽しく過ごせました。機会があれば次は遠出したいですね。有難うございました。(K口)

比良雪稜会からの受講生はテント泊初心者なので、自ら衣食住をザックに詰めて担ぎ歩き、またソロテントで設営から撤収迄を経験する事が出来て大変良かったのでは…と思っています。今回、3つの会のメンバーでのパーティーでしたが、より一層チームワークが強固になった気がします。これからの講習がなんだか楽しみです。(K嶋)

コロナの関係で共同でのテント生活には制約がありますが、それなりに密度のある体験ができたのではないのでしょうか？

2日目は天気にも恵まれ、清々しい濃緑の季節を楽しめました。地図読みは言語を学ぶようなもので、最初は抽象的な記号の集まりにしか見えなかったものが、慣れてくるとだんだん視覚イメージと結び付いてきます。

なかなかピンポイントで場所を探し当てるのは難しく、複数人で読むと他の人の判断に引きずられがちなことにも注意が必要ですが、毎回想像力を働かせて練習するようにしてみてください。(N森)

テントで寝れるだろうか、重たい荷物を背を背負って歩けるだろうかと不安でしたが、楽しいテ

ント泊を経験することができました。早朝からの比良山縦走は木々の緑がきれいで清々しく気持ち
がよかったです。読図はまだまだ苦手ですが、いざというとき困らないよう練習していきたいです。

(N村)

テント泊の荷物を持ってダラダラしたダケ道を八雲ヶ原まで登れるかが一番の心配だったが、無
事何とか到着できたことが一番うれしかった。幻のぶなの巨木は残念ながら見つけることができな
かったが、またいつか出会ってみたい。途中で小雨も降ったが大事には至らず、夕食もみんなで楽
しく食べることができて良かった。翌日は天気に恵まれ、早出で出発したので早朝の山や木々のす
がすがしい景色、雨に濡れてキラキラしたコケに感動した。読図だけでなく、リーダーとして先頭
で歩くと緊張する。全体の動きなども見られるようゆとりを持つことが必要だと思った。読図は相
変わらず苦手で難しいが、繰り返す中で少しずつでもわかるようになっていきたい。(S水)

今回の山行では、パーティーでのテント泊とバリエーションルートでの地図読みの練習を主に学
んだ。テント泊は小雨の降る中での設営と夕食だったが、あまり風がなかったことや適当なテント
場が見つかったことからスムーズに泊まることができた。食事も共同食というよりは個食というス
タイルだったが、楽しく過ごすことができた。地図読み山行は、わかりやすい尾根道では現在の
把握も含めて順調に進むことができたが、尾根の終点からの下りをどの方向に降りるか、見極めが
困難だった。下りの地図読みは慎重にとの指摘を体感した山行だった。(T本)

のしかかる重いザック、夜中にテントを叩く雨の音、トイレがない、計画書通り歩けるのか・・・不
安材料がいっぱいだったが、多くのことを教えてもらい、充実の2日間だった。武奈ヶ岳に辿り着
いて見渡せた景色がしんどさや不安な気持ちを消し去ってくれた。たくさんの赤ハラ、迷い猟犬、
マダニとの予期せぬ出会いも興味深かった。読図はまだまだ経験を積まないと習得できないことも
身にしみて分かった。(S口)



<報告> 2022年【交流登山】……（主催：彷徨倶楽部）

○日程・場所 **6月4日(土)「大御影山」**（福井県美浜町と滋賀県高島市との境に位置する）

○参加者 5名（会員 4名、非会員 1名）（集合：JR 堅田駅 午前 7:00）

○コース 松屋地蔵大権現岳登山口（美浜町）9:10 ⇒ 10:00 松屋地蔵大権現岳（597m）



登山口からかなりの急登。でも木漏れ日のなか快い風が気持ちよかった。



ここはあまり眺望がなく残念

12:00 大御影山山頂（950m）12:45 → → → →

⇒14:20 能登又谷下降点へ



大御影山頂上で写真



ルートを探しながら、急こう配ルートを下る



谷に降りてきて渡渉

⇒14:00 大御影山登山口を經由 ⇒ルート上では色々なきれいな花の木を見ながら⇒（林道を歩き）⇒



⇒15:00 登山口着（こちらにはおしゃれな Café がありました）



早朝の曇りからちょうどよい加減の天気。急登で始まりましたが、優しい緑木、白やピンクの花に迎えられゆったりとしたとても気持ちのいい登山道。遠くに日本海、びわ湖の双方を眺められ爽快な日。後半は地図読みの必要なバリエーション的なコース取りをし、急勾配な坂を下りていき谷を目指す。久しぶりの渡渉、石のコケに危うく足を取られたが何とかセーフ。帰りの林道は少し長くて余計ではあったがおしゃべりも楽しい1日となった。（報告：彷徨倶楽部／山元）

八ヶ岳・南稜～阿弥陀岳

— ステップアップ登山講座2022 (第1回) —

クライミング研究会／彷徨倶楽部
秋田 誠

2022年第1回のステップアップ登山講座を八ヶ岳・阿弥陀岳南稜で実施しました。メンバーは異なりますが2017年8月にも本講座でこのルートに登っています。私は積雪期を含め5回南稜を登りましたが、核心部の3峰(P3)はどの山行もルンゼルートから登りました。P3にはルンゼ左岸の岩稜にもルートがあります。今回はこの岩稜ルートを登れないかと考えました。岩稜ルートはⅢ級程度ですが1ピッチ岩登りがあり、常識的に考えればガイドレシオ2以下で登るべきです。今回の講習参加者は5名。上手く工夫して岩稜ルートを登る方法はないかと山行直前まであれこれ考えました、しかし講習会での無理は禁物。安全登山が何よりです。結局今回もルンゼルートから阿弥陀岳に立つことにしました。

天気がぱつとしないせいか、週末なのに登山口の舟山十字路に停まっている車は1台きりでした。6月は日照時間が長く長時間行動が出来るので山行の自由度が高くなります。欲を言えば梅雨の合間の晴天と週末休みがシンクロしてくれたらもっと良いのですが・・・。今日はここ数日間の天気の変化をしっかり天気図で研究し、10時過ぎからの「晴れ」を予想した上での山行でした。明るくなった林道を30分ほど歩くと南稜の取付きです。ひと雨降った後の新緑がなんとも清々しく、小鳥たちの囀りが森に木霊して身も心もリフレッシュします。今では標識が立てられてすっかりポピュラーになった南稜の取付き。伏流になっている広河原沢を転石伝いに渡ると、地べたにあごがつきそうな急登が待っています。比高70mほどですが歩き出したばかりの身にはとっても辛い登りです。

息を切らして南稜の末端に立てば立場山までは尾根通しのごく普通の登山道です。なだらかな立場山の山頂はコメツガに覆われて展望はありませんが、青々とした苔が極上の絨毯のように足元に広がります。機会があればゆっくりテントで1泊したい素敵なところ。立場山から瘦尾根を下ると、遠くから青く見えるのでその名を与えられた「青ガレ」の上縁に出ます。南稜から立場川まで一気に薙ぎ落ちる青ガレは八ヶ岳で最も大きな崩壊壁ではないかと思えます。南稜のランドマークです。樹林が途切れ、陽当たり恵まれた岩場にはイブキジャコウソウが群生しています。肌寒い天気のおかげか時季が早いのか、固そうな蕾が並んでいました。セリバオウレンやキイチゴなど可憐な白い花たちもあちこちで咲き群れて目を楽しませてくれました。



P3が見えた

青ガレを過ぎると岩稜になります。P5とP4を稜線の左側(西側)から巻き、草付きをトラバースすれば核心部P3の基部です。P3の基部は5、6人立つことが出来るバンドになっています。バンドの末端からやや突き出た岩を回り込んでルンゼに入ります。2、3手ですが岩は被り気味、足元は広河原沢第3ルンゼの源頭ですっぱり切れ落ちています。落ち着いて慎重に通過しなければなりません。ルンゼは緩い傾斜の階段状でホールドも豊富です。ぐいぐい高度を稼ぐことが出来ます。今回は上部のハイ松を支点にロープを50m固定し、フリクション・ヒッチで自己確保して登りました。前の晩が雨だったのでルンゼには水が流れていました。40mほど登り滝状になったところで左の草付きに移ります。草付きには大きなステップ、いわゆる「バケツ」が刻まれています。しかし、傾斜が強いため足場を崩して滑落しないよう注意が必要です。後で見るとルンゼ上部の登攀はなかなか迫力の写真になっていました。

P3を過ぎれば阿弥陀岳の頂上まで浮石に注意して登るだけです。P3を登る頃には青空、と期待していたのですが、阿弥陀岳の山頂に立っても相変わらず意地悪雲が展望を奪っていました。ようやく雲が切れ始めたのは、中央稜を下る頃です。やはり晴れた山は気持ちが良い。登ってきた南稜を横目に急峻な中央稜をどンドン下りました。以前にも下ったことがある尾根なのですが、こともあろうに標高2、500m付近で踏み跡を見失うミスをしてしまいました。登り返すことも頭をかすめたのですが、時間の余裕があり地形もよく把握していたので、尾根を横断して本来の踏み跡に合流しました。地図では読み取れない崖が2カ所あり、懸垂下降で下ったので2時間ほどタイムロスがありました。

日 程：2022年6月12日（日）曇りのち快晴

メンバー：L. 秋田 誠（講師、彷徨倶楽部）、塚本正弘、
福井敏文（滋賀山友会）、木村敦子（比良雪稜会）

タ イ ム：

舟山十字路 5:40—立場山 7:55～8:10— P3 基部 10:15～10:35

—阿弥陀岳 11:55～12:30 -（中央稜）- 舟山十字路 17:10



ルンゼを登る



雲の中の阿弥陀岳山頂



中央稜を下る

〔ひと口感想〕

- 山行から帰って3日目、未だ筋肉痛が続いています。午前中ガスの中を震えながら登ったルンゼ、午後青空の下での中央稜の下り。全然違う山行を満喫出来ました。キツイ場面でも、明るく朗らかに接して頂いた皆さんに助けられた山行でした。ありがとうございました。（木村敦子）
- 今回の講習では、クライミングに使う道具、カラビナやスリング、ロープなどの特性を学ぶとともに、P3ルンゼではセルフビレイやロープにプルーシックコードを巻きつけて安全を確保しながら登る体験が出来ました。中央稜の下りでの懸垂下降では手順がすぐに思いつかず、下降中にバランスを崩すなどもっと習熟が必要と感じました。前日まで天気心配でしたが、次第に好天になるとの予想通り、昼前から雲が切れ始め午後には晴れ、八ヶ岳の絶景を見ながら歩く楽しい山行になりました。準備していただいた秋田さんを始め皆さんに感謝です。（塚本正弘）
- 初めての冬山は2月の硫黄岳。しばらくして再び2月頃に赤岳を訪れた。今回は初めての雪のない八ヶ岳だった。山頂で見た、美濃戸口の建物や行者小屋等、過去に訪れたルートが思い浮かんだ。阿弥陀岳南稜は昭文社地図では一般ルートではない。しかし、しっかりと踏み跡があり良く登られていると感じた。山頂直下のルンゼ登攀、下りの中央稜での懸垂下降。ステップアップ登山講座の名の通り有意義な山行であった。秋田さんとの山行は2回目ですが学ぶことが多く、今後ご指導願わずにいられない。（福井敏文）
- 今回はフリクション・ヒッチで固定ロープから自己確保をとって岩場を登る体験をして頂きました。フリクション・ヒッチの中には、ロープが濡れている場合に強い荷重が架かかると摩擦が効きすぎて滑りが悪くなるものがあります。それぞれの特性をよく知り、状況に応じて使い分けることが必要です。バッチマンは荷重を抜けば容易に前後（上下）に動かさず、またカラビナが取っ手になるので使いやすいフリクション・ヒッチです。ぜひマスターしてください。

中央稜の下降では私のミスで踏み跡を外してしまい申し訳ありませんでした。今回は時間の余裕があり、私が地形を十分把握していたので、尾根をトラバースして正規の踏み跡に合流しました。今回の行動は幾つかの条件が揃っている場合にのみ選択できるものです。一般的には、迷ったら「確実な地点まで戻る」という原則を守ってください。また、懸垂下降はバリエーション・ルートを目指す際には欠かせない技術です。指導者がいない状況で実際に下降することは事故の危険があり避けて頂きたいですが、手順については日頃から確認しマスターしておいてください。（秋田 誠）

初級登山教室実技（2022.5.14）

金比羅山 Y 懸尾根ヒヤリハット報告書

1. 日時：5月14日（土）12時頃 受講生Tさん 男性 67歳
2. 場所：京都北山 金比羅山 Y 懸尾根
3. 概要：Y 懸尾根の北尾根との合流点手前の岩場でTさんがリードし、谷内がビレイをした。取付き点は支点が無かったTさんが足を滑らし伸ばしたロープの長さ（3～4m）まで斜面を落ちて受講生のT・Mとセルフビレイをしていた木にぶつかって止まった。双方共、ケガは無し。

1. 当日の計画予定の変更説明について

当初は北小松しし岩の予定が当日早朝まで雨の予報のため、足元が良く比較的危険が少ないY 懸尾根に変更し、計画書を送付した。Y 懸尾根は通常はロープを使用することなく登れる岩場で初心者がロープワークを練習するのに適したゲレンデと考えた。

2. 班分けの問題 受講生1名に対してスタッフ2名の基本が守れない場合の対応策はなかったのでしょうか

当日は3班に分け、他の2班は受講生1名に対してスタッフ2名の対応ができたが、スタッフの人数が足りず、TさんはA講師のステップアップの受講や以前ロープを使った経験もあるので谷内が3人の受講生を引き受けた。今の現状ではスタッフの不足と力量に違いもあり、受講生1名に対してスタッフ2名の体制を全てに組むことは困難なため、スタッフを増やすか時間を使ってスタッフが複数回受講生をフォローする対応となる。後者の場合は停滞時間が長くなり、落石等に対する安全性や実技（登攀）の連続性が損なわれる恐れがある。

3. 岩初心者の受講生が岩トレ2回目でリードで登ることに対しての不安や危険なかったのでしょうか

当然、不安や危険はあります。Y 懸尾根は通常ロープを使わずに登りますが教室としてロープワークの練習のため、初心者のTさんについてはリードもやってみたいとの要望があり、登ってもらいました。その後も上にいたスタッフに補助ロープを出してもらってリードの練習をされました。

※ヒヤリハット事例の追加

同日、午後3時過ぎに北尾根の終了点から1ピッチ登ったところで登攀終了とし、北尾根基部へ向けて下山開始しました。正規の登山道では無いので足元が悪く、浮石が多い急斜面をジグザグに下るトレースです。人頭位の石が上部から落石し、谷内の右腕に当たって落ちました。T・Mの横をかすめたようです。幸い打撲程度で傷はありませんでしたが落石の危険があるところでは石を落とさないよう歩き、メンバーの間隔を空けて歩くことが必要です。

ヒヤリハット報告を読んで

友永芳和

初級登山教室でヒヤリハットが発生したと講師の谷内さんから報告がありました。

クライミングは他と比べてリスクの高い行為です。僅かのミスやちょっとした油断で大きな事故を引き起こす可能性が高いものです。それだけにどんな小さなヒヤリハットでも見逃さずに報告することは大切です。小さなことの積み重ねを放置しておくとなかなか大きな事故の引き金となります。

今回の報告で気になったのは、「岩初心者の受講生が岩トレ 2 回目でリードで登ることに対しての不安や危険はなかったのでしょうかの問いに、当然、不安や危険はあります。Y 懸尾根は通常ロープを使わずに登りますが教室としてロープワークの練習のため、初心者のTさんについてはリードもやってみたいとの要望があり、登ってもらいました。その後も上にいたスタッフに補助ロープを出してもらってリードの練習をされました。」の部分です。登山教室は安全第一です。現実には落ちたのですから、不安や危険を感じたのであれば、当人の希望があったとはいえリードはさせてはならなかったと思います。登山教室である以上、受講生を必要以上に危険にさらしてはならないと思います。もう少しトレーニングをして、確実にリードが出来るかと判断してからでも遅くないと思います。クライミングには、当然不安や危険は伴いますが、出来る限り小さくするために、慎重の上にも慎重を重ねるべきだと思います。「石橋を叩いて渡る」という言葉がありますが、18 回も将棋名人のタイトルを防衛した大山康晴さんは、「石橋を叩いても渡らない」と言われたくらい慎重に指し手を選んだそうです。

山は、とくに登山教室は、それくらい慎重に進めて、事故がゼロである事が当然だと心構えで、講師もスタッフも受講生も臨んで欲しいと思います。

私はクライミングはしないという人もいるでしょう。でも山では思いもよらぬ時と場所で事故が起こります。以下私の例を紹介するので、何故起こったのか、自分ならどうしたか、事故を防ぐにはどうしたら良かったかを考えてみてください。結論は出す必要はありません。ヒヤリハットを見て考える事が大切です。

6 月 3 日 14 時小関越～長等山へ行く途中にある坊越峠から三井寺に下る途中、上から二つ目の堰堤にある木の階段を下っていたところ、最後の階段で上から見て思ったより段差が大きく、右足を下ろした時、痛めていた右ひざに大きな衝撃が加わり、体を支えきれずに転倒し右胸を強打しました。幸い骨は折れてなかったようで、10 分ほど休憩して、水を飲んだり深呼吸したりしたあと三井寺まで下りました。

この山行は例会の下見として、逢坂山を越え、小関越から山伝いに三井寺に行くものでした。実際に歩くと小関越からの道は荒れており例会には使えないと思いました。途中で三井寺に行く分岐を見落として谷沿いに詰めていきました。分岐を行き過ぎた事には気づいたのですが、例会には使えないと思っていたので、引き返さずにそのまま詰めて尾根に出て、長等山に行く道を長等山まで行く事にしました。思ったより広い道に出て進んで行くと坊越峠に着きました。さっきの谷の詰め短い急な滑りやすい登りで膝に負担がかかり、膝が痛くなり始めていたので、長等山に行くのはやめて峠から下ることにしました。道はしっかりしていたのですが、堰堤を越える階段の下りは膝に負担がかかりました。慎重に下っていたのですが、上記のように二つ目の堰堤の下りで転倒してしまいました。

原因は、この階段が最後だと思って気がゆるんだのではないかと思います。それと予定を変更して思ったより長い時間を歩いたので膝が痛くなったことです。足の筋肉も疲労していて足が上がりませんでしたでしょう。

これが核心かもしれませんが、予定を変更しても、どこでも歩けるという過信があったからだだと思います。ヒヤリハットというより事故ですネ。

ぐうたら会長のつぶやき

今回は少し長い文章になります。20年ほど前の新聞の切り抜きです。骨肉腫に侵された少女が弁論大会で発表した原稿の一部です。

「命を見つめて」

みなさん、みなさんは本当の幸せって何だと思えますか。実は、幸せが私たちの一番身近にあることを病気になったおかげで知ることができました。それは、地位でも、名誉でも、お金でもなく「今、生きている」ということなんです。

私は、小学6年生の時に骨肉腫という骨のガンが発見され、約1年半に及ぶ闘病生活を送りました。この間

に、一緒に病気と闘ってきた15人の大切な仲間が次から次に亡くなっていきました。心も体もボロボロになりながら、私たちは生き続けるために必死に闘ってきました。しかし、あまりにも現実が厳しく、みんな一瞬にして亡くなっていかれ、生き続けることがこれほど困難で、これほど偉大なものかということを感じ知らされました。

みんないつの日か、元気になっている自分を思い描きながら、どんなに苦しくても目標に向かって明るく元気ががんばっていました。それなのに生き続けることができなくて、どれほど悔しかったことでしょうか。私がはっきり感じたのは、病気と闘っている人たちが誰よりも一番輝いていたということです。そして、健康な体で学校に通ったり、家族や友達とあたり前のように毎日を過ごせるということが、どれほど幸せなことかということです。

たとえ、どんなに困難な壁にぶつかって悩んだり、苦しんだりしたとしても、命さえあれば必ず前に進んで行けるんです。生きたくても生きれなかったたくさんの仲間が命をかけて教えてくれた大切なメッセージを、世界中の人々に伝えていくことが私の使命だと思っています。

今の世の中、人と人が殺し合う戦争や、平気で人の命を奪う事件、そして、いじめを苦しめた自殺など、悲しいニュースを見る度に怒りの気持ちでいっぱいになります。私の大好きな詩人の言葉の中に「今の社会のほとんどの問題で悪に対して『自分には関係ない』と言う人が多くなっている。自分の身にふりかからない限り見て見ぬふりをする。それが実は、悪を応援することになる。私には関係ないというのは楽かもしれないが、一番人間をダメにさせていく。自分の人間らしさが削られどんどん消えていってしまう」と書いてありました。本当にその通りだと思います。どんな小さな悪に対しても、決して許してはいけません。今の現実がそれです。命を軽く考えている人たちに、病気と闘っている人たちの姿を見てもらいたいです。

今では心から病気に感謝しています。私は自分の使命を果たすため、亡くなった人たちの分まで精いっぱい生きていきます。みなさんも、今生きていることに感謝して、悔いのない人生を送ってください。

13歳の少女らしい文章だし、13歳の少女でなければ書けない文章です。残念ながら彼女は「骨はガンに侵されているけど、心はガンに侵されていない。心は自由で幸せ」という言葉を残して天国に旅立ちました。

今起こっている様々な事件を見ても、ウクライナの戦争を見ても、この20年間人間は少しも変わっていないし進歩もしていないなと感じました。このままだと神様が洪水を起こして人類を滅亡させるかもしれません。その時は、ノアの方舟には人類を載せないようにしてもらいたいです。地球上における諸悪の根源は人類が引き起こしたもののだから・・・。

近畿ブロック代表者会議事録

■日時 2022年5月18日(水) 19:30～

■場所 大阪府連事務所

■出席 滋賀(友永)、京都(坪山)、大阪(高橋)、奈良(豊田・永井)、和歌山(山入)、兵庫(門脇)、全国(野々脇)

■議題

(1)主催者賠償保険

大阪と京都以外は全国連盟に申し込み

(課題) 県連・府連主催行事しか申し込めない

近畿ブロックとしての申し込みの具体化をつめないといけない

内容があいまいな部分があるので注意深く進捗状況を見守る必要がある

(2)2021年度会計報告 2021年4/1～2022年5/18

・収入 452418円(全国安全対策基金雪崩 18万・救助隊 15万/各県連近ブロ費等)

・支出 144930円(女性委員会歩み 38000/女性委員会講習会補助 20000/雪崩講習会 82690/その他)

(課題) 大阪の近ブロ費用未納

雪崩講習会の収支報告が遅延し会計年度に収まらなかった

会計規則がない。近ブロ費の基準なども文書化されていない。10月の会議までに文書化をはかる

(3)近畿ブロック雪崩講習会

・2年ぶりに開催。ハイキングは開催せず

・このままの内容でいいのか10月の近畿ブロ会議で方向性を示す必要がある。そのために各県連府連で救助隊の意見を聞くこと。

・リーダー層の講習に変えていった方がいいのではという意見あり。

・救助隊出動という機会もなくなった

・各県連府連の救助隊の状況など

兵庫～セルフレスキューを普及していくことが肝要ではないか

滋賀・奈良は救助隊がない

和歌山～2年連続死亡事故がおきているのでレスキュー技術の向上必要と思っている

京都～閉店状態。教育部と合併してはという討議も。

次を担う人を育てるためにも近ブロ搬出は続けてほしい

大阪～中級修了生が入隊し自主訓練を継続している

門脇さん～兵庫の救助隊結成は大阪に相談して作った。事故発生した時、訓練せずに救助活動に来てもらっては困ると警察等から言われた。今年も同じ経験をした。組織としてはあった方がいいので今後の方向や来年どうするのか各救助隊で話し合ってもらいたい

(4) 各県連府連の活動報告

兵庫

59 回総会(6/12 10 時～神戸市教育会館)メッセージをお願いします

高齢化対策(2000 名をわって 1800 名も維持が難しい)

40 歳以下、現役世代を取り込む活動

後継者の育成

コロナ禍でもあり各会や各会と県連とのコミュニケーションを深める活動が重点

7/10: 応急手当講習会 9:30～16:00

9月～来年4月: 登山の筋力を強くする講習会 70 万円必要、全国に補助を申し出たが聞置くという程度。

近プロとして協力してほしい

半年間のトレーニングで体力強化の結果を数値化し体力維持が目的。高齢者対策

対象者: 60 歳以上の男女 30 名ずつ

六甲山にトイレ設置運動

六甲全山縦走大会: 詳細検討中

京都(2021 年 10 月～)

無雪期搬出訓練 10/24

6会で登山教室開催や公開山行で4名入会の経験も。

北陸新幹線延伸問題で署名活動をしている

ハイキング委員会、女性委員会は不定期ながら会議開催。それぞれ動き出している

青年委員会は霧氷山行で活動再開。クライミング委員会も5月より活動再開

気象などリモートで講習会実施。その他の会議もリモート化し意見の集約活発になった

滋賀

理事会 ZOOM 併用

クリーンハイキング: 4日、11 コースに分けて開催

ステップアップ登山講座(中ア宝剣 講師1生徒4人:9月など)

登山祭典(10/24 比良・釣瓶岳 14 人他4カ所 87 名参加)

3/6 総会(当日の午前中 登山を始めたい人の講習会 8人)

各会交流山行(10/31 比良山系 飲み水調査 13 人他 4 カ所。各 10 数名参加)

会員数 158 名現在 164 名

総会までに2回代表者会議を行った

雪山講座(2回 比良蓬莱山など。講師3名生徒7人)

会員向け初級登山教室開催中(受講生5人 座学 5 回 実技 10 回)

一般向け入門教室開催中(受講生 15 人 座学7回)

全国自然保護後援会(滋賀が主管 7/9~10) 比良山岳センター

和歌山

3/6 総会

ハイカーのための搬出講習会(11/28 応急手当など 22名参加)

山筋ゴーゴー講習会(12/11 16名参加)

バードウォッチング(1/15 檀原公苑・畝傍山 14名)

奈良

組織数 225名

奈良の山の谷水・湧き水水質検査(33年間 48カ所 165回検査:冊子発行)

高見山避難小屋の修復再建について県に要望

大阪

3/30 第60回総会開催

大阪労山「山の教室」開催中

4月~1月 座学10回 リモート6回 実技5回

女性委員会報告 第26回女性のための登山教室開催 六甲山 受講者7名

夏の冒険学校開催予定

クライミング・キャンプ・ハイキング・雪遊びの4回

平和と登山学習会開催 4月13日「ロシアのウクライナ侵攻はゆるされない」

次回は10/19(水)19:30~大阪労山事務所で開催

2022年 第3回 理事会 (ZOOM併用) 議題

- ◇日時 2021年5月18日(水)午後7:00～8:30
◇場所 明日都浜大津1階 スモールオフィス フリースペース
◇出席 藤野・川嶋・菅(記録)・山元・宮内(計5名)
※ZOOM参加:上澤・田中武・川口
◇欠席 友永(大阪で代表者会議出席)・田中利・村田
◇議題

・ 清掃登山の進捗状況報告

実施日 5/28・5/29・6/4・6/5 (実施: 4日間・計11会場)

- しおり 250部・手引き 50部印刷済 5/18 理事に渡します。
ちごゆり、シャクナゲ、テクテク倶楽部、綾野山歩会へは、5/10 郵送済。
- 各会場の申し込み状況は? 大津広報から2人申し込み?
5/28 山友会(鈴鹿・雨乞岳:上澤) 山友6名雪稜1名
ちごゆり・(正面谷・隠れ滝:柴田)
5/29 岳友会(高室山:村田)
山友会・(近江湖南アルプス天狗岩・) 山友5名
彷徨・(雪野山:山元)
シャクナゲ・(寒風山:我妻)
びわこテクテククラブ・(三上山・テクテク倶楽部:星)
6/4 山友会・(伊吹山・北川) 山友5名
綾野山歩会・(飯道山・森口)
6/5 雪稜会・(南比良1・権現山 会員12、一般10
南比良2・蓬莱山 会員9、一般10(募集中)

*一般向け短期保険についてデータ送付を依頼
- 報告 ゴミ量と写真 6/8(水) 宮内まで 清掃登山チラシ5月号掲載済(表・裏面)
- 県連ニュース7月号(6/15㍻切) に掲載予定 機関紙部へデータ送付予定

2) 組織部

- 交流山行
- ・6/4 「大御影山」(彷徨倶楽部) 県連ニュース5月号掲載済
案内原稿があれば 県連ニュース6月号に掲載
 - ・6/19 予備7/3 「野坂山地・青木先生の観察会」(山友会)
県連ニュース6月号掲載予定 案内原稿も送付済み

3) 教育・遭難対策部

- 初級登山教室
- ・4/16.23 実技報告 6月号掲載予定
 - ・5/11(水) 第2回 座学実施済み
 - ・5/14 金比羅で実技実施

*「アクシデントになりかけたということだが、報告は受けていない」という宮内理事の発言に対して、当日の状況について川口理事、川嶋理事から説明があった。

○座学・入門登山教室 ・5/17 火 第2回 座学
追加申し込み2名あり
計15名中出席9名

- 4) 機関紙部 ・県連ニュース6月号 (エッセ-・写真は、雪稜会の担当)
・C S S (荒島報告・鹿島槍報告予定)
・労山カレンダー写真募集原稿・平和行進原稿

藤野理事より「すべて原稿は揃っている。みなさん締め切りを守っている」と報告。

- 5) 自然保護部 ・4/22 近畿ブロック自然保護委員会ZOOM開催 (別紙報告・田中武)

田中理事から送られた議事録(原稿)をそのままニュースに掲載。

- 6) 財政部 ・ZOOM時の会議用マイクの購入済
(4/25 ヨドバシカメラ 18,480円) (彷徨・山元)

◇組織数

<4月末の会員数の記入>

山友会 61/57 (男 29+女 32) (3+2)	岳友会 28/28 (18+10)	雪稜会 44/44	ちごゆり 15/15 (25+19)	彷徨 9/9	シャクナゲ 5/5 (8+7)	(6+3)
/158 (名)					(2022.4/2022.3)	

進捗状況報告

「第25回全国連盟自然保護講座」7/9~10 出席予定理事 友永・田中武・宮内
山友会自然保護部から 倉内

6/7にズームで理事会に参加して確認事項。

7月になって滋賀労山として当日参加(講演会だけでも)を案内しようかと思っている。

実施要項から

7/9 会場 比良山岳センター 午後12時30分受付 宿泊 比良山岳センター
演題「美浜・新庄ウインドファーム発電事業から考える環境アセス」
講師 若松伸彦(日本自然保護協会)

地方連盟からの報告

- 1 徳島：四国地方における風力発電
- 2 静岡：南アルプスの自然、環境を壊すリニア計画
- 3 広島・千葉 風力発電への考察(資料報告)

7/10 午前6時30分出発 比良山岳センター→野坂山地風力発電計画予定地の視察
午後3時 比良山岳センター解散

・全国連盟の参加状況を見て、県連ニュース7月号(6/15㍻切)で7/9のみ参加募集案内

メモ

- 1.安全対策基金申請と報告 2022年度申請、2021年度報告書4/14送信済
- 2.各会の2022年度の会員名簿の提出お願い (山友会済・)
- 3.10/23 登山祭典の各会コース決定8月上旬までに ちらし作成
- 4.発注印刷物の届け先は、スモールオフィスにしてください。事前に宮内まで連絡を

チラシを作成するので、7月末くらいまでにコースを決定して組織部(理事会)に報告してほしい。

次回

第4回理事会は「メール会議」のみ 清掃登山の報告㍻切6/8以降にレジメ配信します。清掃登山も終わって報告だけなので。ズーム会議も行わない。

宮内理事より

県連のホームページに初級登山教室の予定を入れて、ブログに報告書をアップしている。秋田さんの登山講座も別に作ってあげさせてもらおうかと思っている。県連でやっていることをもっと知ってもらえるよう、県連らしいやり方で発信できたらと考えている。

藤野理事

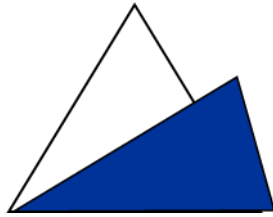
ホームページの維持管理についても考慮したほうがいいのではないか。

19:57 終了

行事予定

月	日	県連・全国行事	月	日	各会の行事	会名
7	6	第5回理事会(メール)		3	伊吹山	岳友
	12	座学・入門登山教室		9-10	加賀大日山～越前大日山	彷徨
	13	初級座学(沢登り入門)		10	比良コヤマノ岳	ちご
				16~18	穂高 715前夜発	岳友
	23	初級実技(沢登り)比良八洲の滝		27-29	夏山(行先未定)	ちご
				29-31	妙高火打山～焼山	彷徨
	30-31	ステップアップ登山講座2022(3) 北アルプス・餓鬼岳、唐沢岳(CSS)		30	夏山集中	山友
8				7	ソーメン山行(隠れ滝)	ちご
				7	白山 8/6前夜発	岳友
			8	11-15	北アルプス鷲羽岳・水晶岳	彷徨
	24	初級座学(クライミング入門2)		21	二の谷(夏エビネ)	ちご
	27-28	ステップアップ登山講座2022(4) 奥秩父・笛吹川東沢釜ノ沢		21	例会「半国山」	山友
				20-21	笛吹川沢登り	岳友
9				26-28	北アルプス笈が岳	彷徨
	10	初級実技(金毘羅ゲレンデ)		3-4	由良ヶ岳・赤石ヶ岳	岳友
	13	座学・入門登山教室		17	福井 鬼ガ岳	彷徨
				18	ハイキング部例会	山友
	21	初級座学(読図・バリエーションルート)		17-19	北アルプス七倉岳～烏帽子岳	岳友
	22~25	ステップアップ登山講座2022(5) 北アルプス・横尾本谷～檜ヶ岳		22-25	皇海山	彷徨

会名略号 山友：滋賀山友会、岳友：湖南岳友会、雪稜：比良雪稜会、ちご：ちごゆり山歩会
 シャク：シャクナゲ溯行クラブ、彷徨：彷徨倶楽部
 スキーネット；山スキーネット滋賀、CSS：クライミング研究会滋賀 初級：初級登山教室



2022年8月号の原稿は、7月15日〆切です。
写真とリレーエッセイの担当はちごゆり山歩会です。
原稿の投稿先は 宮内 m-miyauchi@ares.eonet.ne.jp
藤野 kawahaakebono@gmail.com
菅 nokomama.2016@gmail.com

<機関紙部よりお知らせとお願い>

県連ニュースの編集は従来ワード文章を貼り付ける方法をとっていましたが、
より簡便にするため、7月号よりPDFを繋ぎ合わせる方法に変更します。
目次表記はありますが、ページ番号の記載はなくなります。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

『県連ニュース2022年7月 NO.540号』

発行日：2022年6月22日

滋賀県勤労者山岳連盟

TEL 080-4971-6231

〒520-0047

Email shigarosan@gmail.com

大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F

ゆうちょ銀行(店名418)

大津市市民活動センタースモールオフィス内

普通 0239956

メールボックス NO13

<http://shigarousan.jimdo.com/>

発行責任者 宮内 眞子

編集委員 藤野 健太郎 菅 泉